

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【公表番号】特表2004-527490(P2004-527490A)

【公表日】平成16年9月9日(2004.9.9)

【年通号数】公開・登録公報2004-035

【出願番号】特願2002-567283(P2002-567283)

【国際特許分類第7版】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/133

A 6 1 K 31/135

A 6 1 P 37/06

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/133

A 6 1 K 31/135

A 6 1 P 37/06

【手続補正書】

【提出日】平成15年8月20日(2003.8.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊離の形態または薬学的に許容される塩の形態のリンパ球ホーミング促進剤を含む、器官または組織移植のレシピエントにおける移植片の機能発現遅延の低下に使用するための剤。

【請求項2】

遊離の形態または薬学的に許容される塩の形態のリンパ球ホーミング促進剤を含む、器官または組織移植のレシピエントにおける移植された器官または組織の機能的回復の促進に使用するための剤。

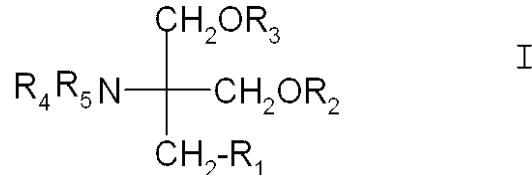
【請求項3】

遊離の形態または薬学的に許容される塩の形態のリンパ球ホーミング促進剤を含む、腎移植のレシピエントにおける移植された腎臓の糸球体濾過率の改善に使用するための剤。

【請求項4】

リンパ球ホーミング促進剤が、遊離の形態または薬学的に許容される塩の形態の、式I

【化1】



〔式中、

R<sub>1</sub>は、所望により置換されていてもよいフェニレンにより所望により割り込まれていてもよい12～22個の炭素原子を有する所望により置換されていてもよい直鎖-または分枝鎖の炭素鎖であり、そして

各  $R_2$ 、 $R_3$ 、 $R_4$  および  $R_5$  は、独立して、H または低級アルキルである。] で示される化合物である、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の剤。

**【請求項 5】**

式 I の化合物が、遊離の形態または薬学的に許容される塩の形態の 2 - アミノ - 2 - [ 2 - (4 - オクチルフェニル) エチル] プロパン - 1,3 - ジオールである、請求項 4 に記載の剤。

**【請求項 6】**

器官または組織移植のレシピエントにおける移植片の機能発現遅延の低下または移植された器官もしくは組織の機能の回復に、あるいは腎移植のレシピエントにおける移植された腎臓の糸球体濾過率の改善に使用するための医薬組成物であって、1 またはそれ以上の薬学的に許容される希釈剤または担体とともに、遊離の形態または薬学的に許容される塩の形態のリンパ球ホーミング促進剤を含む、医薬組成物。

**【請求項 7】**

免疫抑制剤または免疫調節剤であるコエージェントと、同時的にまたは個別的に、組み合わせて使用するための、請求項 6 に記載の医薬組成物。

**【請求項 8】**

器官もしくは組織移植のレシピエントにおける移植片の機能発現遅延の低下または移植された器官もしくは組織の機能の回復の改善、あるいは腎移植のレシピエントにおける移植された腎臓の糸球体濾過率の改善に使用するための医薬組成物であって、

a) 遊離の形態または薬学的に許容される塩の形態の、リンパ球ホーミング促進剤である第一の剤、および

b) 免疫抑制剤または免疫調節剤であるコエージェント

を含み、そしてこれら 2 つの剤が同時的または個別的に投与される、医薬組成物。

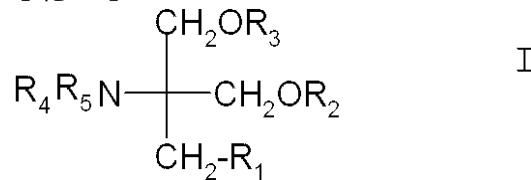
**【請求項 9】**

コエージェントがカルシニューリンインヒビター以外である、請求項 7 または 8 に記載の医薬組成物。

**【請求項 10】**

リンパ球ホーミング促進剤が式 I

**【化 2】**



[ 式中、

$R_1$  は、所望により置換されていてもよいフェニレンにより所望により割り込まれていてもよい 1,2 ~ 2,2 個の炭素原子を有する所望により置換されていてもよい直鎖 - または分枝鎖の炭素鎖であり、そして

各  $R_2$ 、 $R_3$ 、 $R_4$  および  $R_5$  は、独立して、H または低級アルキルである。] の化合物である、請求項 6 ~ 9 のいずれかに記載の医薬組成物。